

経済・金融 フラッシュ

米9月ISM製造業指数は、56.2 と2年半ぶりの高水準に続伸

経済研究部 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

米9月ISM製造業指数は56.2と2年半ぶりの高水準を回復した。5月に景況感の分かれ目となる50を割り込み4年ぶりの低水準に落ち込んだ後、4ヵ月連続で上昇、5月をボトムにした回復局面が続いている。上半期の米経済は「財政の崖」合意による増税や強制歳出削減等の影響下にあったが、下半期はそうした影響が薄まり持ち直しに向かうとの見方を示唆するものと言えそうだ。ただ、FRBの金融緩和策縮小に伴う長期金利の上昇、新年度予算の遅れに伴う政府のシャットダウンや政府債務の上限問題、等の様々なリスク要因に伴う景気への影響には留意しておきたい。

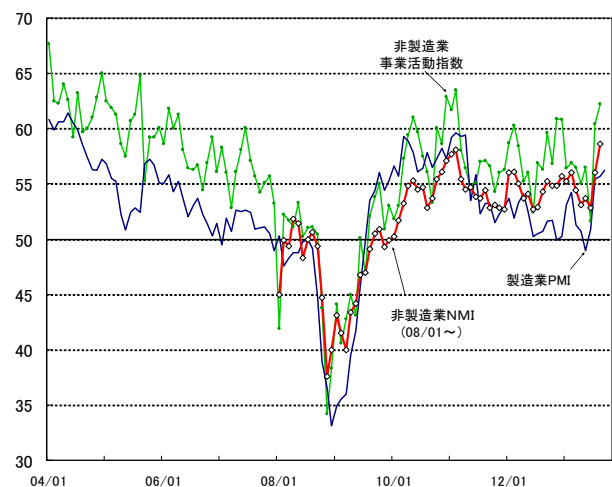
1、製造業PMIは56.2と続伸、2年半ぶりの高水準に

企業のセンチメントを示す9月ISM(米供給管理協会)製造業指数(PMI)は56.2と前月(55.7)から上昇し、2011年4月(59.4)以来となる2年半ぶりの高水準となった。市場予想は55.0だった。PMIは、5月に49.0と2009年6月(45.8)以来となる4年ぶりの低水準に下落した後、4ヵ月連続の続伸となる。

過去を振り返ると、金融危機時の2008年12月に33.1とボトムを記録、その後、2009年8月に業況の分かれ目となる50を回復、39ヵ月連続で50台を保った。昨年11月に49.9に下落後は、50前後での推移を見せていた(図表1)。

9月PMIの構成5指数を含めた10指数を見ると、前月比で上昇したのは7指数で、残りの3指数は下落した。発表元のISMでは、過去のデータから見たPMIが示す経済全体の分かれ目(GDPのゼロ成長)は42.2であり、9月水準(56.2)は実質GDPの年率4.4%に対応する水準としている。なお、3日発表予定の9月非製造業指数(NMI)の市場予想は57.0と8月(58.6)から低下が見込まれている。

(図表1) ISM指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

(各指数別の動向)

2、構成5指数中では生産・受注指数が60台を維持

PMIの構成5指数(新規受注、生産、雇用、入荷遅延、在庫)では、雇用指数が53.3→55.4と前月比2.1ポイント、在庫指数が47.5→50.0と同2.5ポイントの上昇を見せた反面、新規受注が60.5と同▲2.7ポイント低下した。残りの2指数は、生産が62.6(同+0.2)、入荷遅延が52.6(同+0.3)と若干の上昇に留まった。

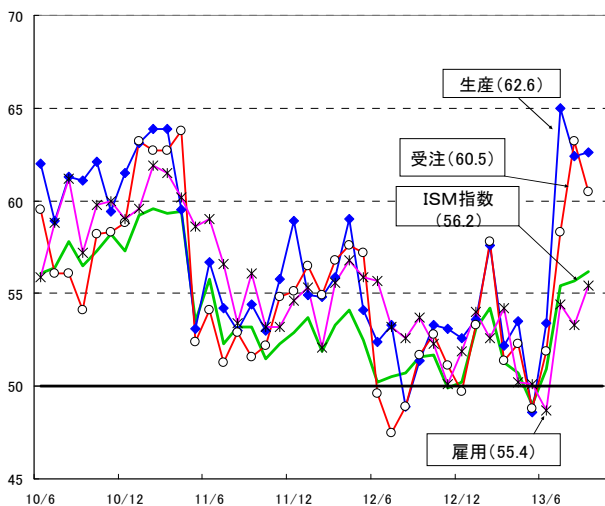
先行指標となる新規受注は前月に急上昇しており、9月も前月を除けば2年半ぶりの高水準となる。生産指数も3ヵ月連続で60台を維持、主要な2指数が60台の高水準にあるなど、製造業の業況は堅調に推移していることが窺われる。

雇用指数は6月に48.7と約4年ぶりに50を下回ったが、9月には55.4と昨年6月以来の水準を回復した。なお、4日発表予定の労働省の9月雇用統計は、政府の閉鎖で先送りされる可能性があるが、現時点の市場予想は前月比18.0万人増(8月16.9万人)、うち製造業は0.6万人増(8月1.4万人)とされる。

構成指数以外の5指数の前月比では、価格指数(56.5)が+2.5ポイント、受注残指数(49.5)が+3.0ポイントと上昇、反面、輸出入指数では、輸出(52.0)が▲3.5ポイント、輸入(55.0)が▲3.0ポイントといずれも低下し、輸入指数の水準が輸出を上回る状況が続いている。

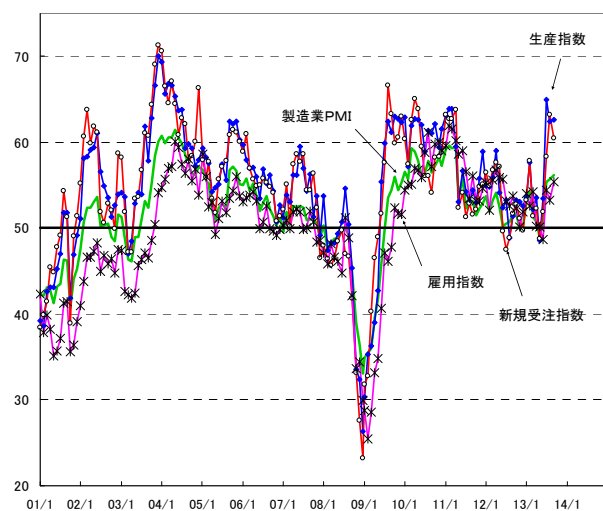
上半期の米国経済指標では、「財政の崖」後の増税・歳出削減の影響等から減速するものが多く見られたが、ISM指数は5月(49.0)をボトムに回復、7月以降は連月で50台後半の推移を維持するなど、製造業の堅調な状況を示唆するものとなっている。

(図表2) PMIと主要構成指数の推移(短期)



注：月別、()内の数値は2013年9月値

(図表3) PMIと主要構成指数の推移(長期)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。